

営業課集配営業係の1日 ～集配精度向上に向けて～

営業課集配営業係

はじめに

営業課集配営業係（以下、集配営業係）では集配作業でシステム化できない工程が多く、現在も手作業による記録や確認作業を行っています。その中で日々、集配精度向上に向け努力しており、本号では集配営業係の1日の活動について紹介いたします。

1. 集配営業体制の概要

(1) 人員

当検査センターの集配営業係の総人員は53名で内訳は右表のとおりです。検査センターの在籍職員数が168人ですので検査センター全体の約30%を占める大所帯です。（5月末現在）

■営業課集配営業係人員

| 職員区分 | 人数 |
|-------|-----|
| 正職員 | 6名 |
| 準職員 | 1名 |
| 臨時職員 | 40名 |
| パート職員 | 6名 |
| 合計 | 53名 |



(2) 車両台数と安全管理

車両保有台数は45台で全車両にMCA デジタル無線機を装着しています。1日の積算走行距離が2,500kmにも及ぶため、安全運転対策としてドライブレコーダーを全車両に装着し、万が一事故が発生した場合、ドライブレコーダーの記録映像から事故原因が究明できる体制をとっています。また、定期的に安全運転研修会^{*}を開催しています。

^{*}『検査センターだより第466号（平成27年12月15日発刊）』に詳細な記事を掲載しております。

(3) 集配営業エリア

集配営業エリアは、広島市内、安芸区、安芸郡、安佐南区、安佐北区、山県地区、佐伯地区、大竹地区で、訪問医療機関数は約1,400医療機関に及びます。

その他、企業検便の回収や広島市立学校等の健康診断業務に関する配達・回収業務にも携わっています。



2. 集配精度向上に向けた取り組み

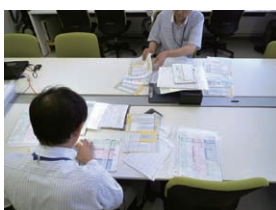
(1) 誤配防止策

報告書の大仕分け：



1日にお届けする報告書は月初めで約8千枚あり、全て手作業で仕分け作業を行っています。誤配を限りなくゼロにするために、専門の大仕分担当者が報告書を38コースに分別し仕分け棚に収納していきます。

コース集配営業員仕分：



次にコース集配営業員38名が大仕分された報告書を、訪問する医療機関順に並び替えます。

報告書は大小様々な大きさのため、紛れ込まないように慎重に仕分けしビニール袋に入れ、医療機関訪問前に他施設の報告書の混在が無いかが都度確認を行います。

(2) 授受管理

検体搬送作業日誌記入：



集配営業係では検体以外にも様々な物を配達したり預かったりします。そのため、授受管理については「検体受領搬送作業日誌」に定められた事項を記録しています。

（下表参照）

記録は、後日問合せ時の追跡資料として活用できます。

検体受領搬送作業日誌に記録する事項

| 配 達 物 | 受 領 物 |
|---|--|
| ① 報告書配達完了のチェック (☑) ② 細胞診報告書の枚数 ③ 病理報告書の枚数 ④ 報告用 FD / USB の本数 ⑤ 生体検査結果等の配達先及び患者名 ⑥ 採血管等の物資類 | ① 受領時間 ② 依頼書の種別と受領枚数 ③ 検体種別と受領本数 ④ データ取込後の FD / USB 本数 ⑤ 生体検査依頼書等の医療機関名、患者名 ⑥ 物資注文書やその他書類 |
| そ の 他 | |
| ① 出発、中間、帰着時間と常温室、冷蔵室の測定温度 ② 始業時メーター指針 ③ 事故・処理記録他 | |

(3)検査前最終確認

帰所後の作業：

検査センター帰所後は各検査室に速やかに検体を引き渡します。血液検体（検査依頼書 I、オーダーリング、FD、USB）については検査前処理を行い、検査依頼書 I とオーダーリングは集配営業員全員が検体到着確認（バーコード読み取り）を行います。また、集配営業員は患者属性の入力修正作業までを業務範囲として行う予定です。

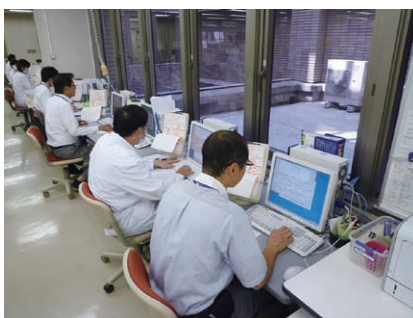
▼依頼種別ごとに分けて採番します。



▼5台のパソコンで検体のバーコードを読み取ります。



▼一部の集配営業員は患者属性の入力作業も行っています。



入力修正作業はこれまで他部署が行っていたため、集配営業員が検体や検査依頼書等を引き渡した後に属性間違いや検体不具合が起こった時、その情報が集配営業員に伝わりにくい状況でした。しかし本年5月からは、医療機関での授受確認がより正確に、検査室への検体搬入がより迅速にできるよう、新たな取り組みとして、集配営業員自らが検体授受から属性入力・修正作業までを一貫して行うことを始めています。

おわりに

コース集配営業員は1日1人あたり約50～60施設を受け持ち、時間指定集荷にも柔軟に対応しています。また、緊急集配員を6名常駐させ緊急検査依頼にも迅速対応しています。

集配営業員は医療機関で検体をお預かりした時点から精度管理が始まっていることを念頭に置き、集配精度の向上を目指します。また、今後は営業的側面も持ち合わせるよう定期的に所内研修会を開催し、丁寧で確実な集配営業を目指していきます。